令和５年度　「特色ある学校づくり対策事業」実践事例

佐世保市立宇久中学校

所在地　佐世保市宇久町平 2303 番地

校　長　江頭　正次郎

生徒数　１６名 学級数 ３（Ｒ５.５.１）

（実践テーマ）～郷土を愛し、郷土に貢献する心を養う～

○ 実践テーマ設定の理由（目的）

五島列島の最北部に位置する本校は、１島１中学校であり小中高一貫教育の１２年間を地域住民の方々の温かいご支援を受け育っている。12 年間の小中高一貫教育を経た後は多くの生徒が島外への進学・就職を選択する。

そこで、地域で育まれ愛されてきたことを肌で感じることにより、自信を持って一歩ずつ前進する力を身に付けるとともに、将来においても「ふるさとを愛し、ふるさとの発展に貢献する」人材の育成を目指し、上記テーマを設定した。

○ 重点項目および実践内容

上記の目的を達成するために、以下の５点を重点項目として取り組んだ。

１　学力向上	２　環境自然	３　郷土学習
４　キャリア教育	５　健康食育	

１　学力向上

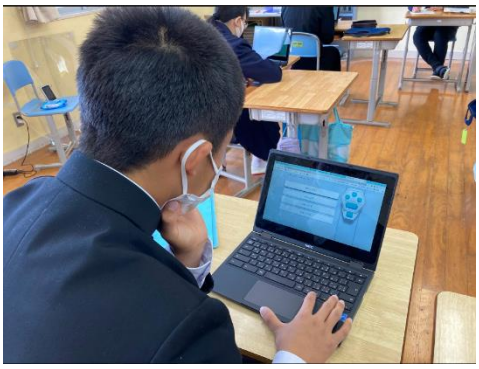
（１）朝の時間の活用

①ｅ－ライブラリよる学習時間

毎週火曜日・木曜日を e-ライブラリに取り組む時間と設定し、それぞれの生徒に応じた学習課題に取り組ませた。実施に際しては全職員で指導にあたり、個に応じた学びとなった。

②読解力トレーニング（RST）

毎週金曜日を読解力の時間と設定し、新聞記事や各種データなどから必要な情報を読み取る力や自分の意見を書く力を育てる時間とした。しかし、毎時間教材を吟味し、準備をする教職員の労力の大きさが課題となっていたため、今年度は教材を購入し、活用するように移行した。生徒一人一人の課題や偏りを教職員が把握し、よりきめ細やかな個に応じた指導につなげることができた。また、生徒自身も継続して学習に取り組むことで自分の言葉で表現することができるようになり、思いを伝える表現力の育成につながった。教材の活用で教職員の働き方改革の一助となった。



ｅ―ライブラリの学習

読解力トレーニング学習

（２）家庭学習

宿題とは別に、端末を使ったｅ―ライブラリや自主学習ノートでの学習など生徒の実態に応じた学習内容を選択させ取り組ませた。生徒が自分のペースで学習することができ、得意な教科をさらに伸ばしたり苦手な教科克服に重点をおいたりすることにより、個別最適な学びにつながった。

（３）小中高での授業研究

小中高全教員で、それぞれの校種の授業を公開し、授業研究を開催している。今年度は小学校で算数科、中学校で英語科、高校での国語科でそれぞれの研究授業を行った。12 年間を見据えた学習指導の在り方について、指導案中に共通実践事項を設定することや授業研究会でのワークショップ形式での討議を行うことなど、様々な方策を通して児童生徒の学力向上を図った。

（４）黒島小中学校との交流学習（７月）

同じしま部である黒島小中学校との交流学習をとおして、地域による違いを理解し、ふるさとへの思いを深め、これまでの地域学習の成果や課題について振り返ることができた。また、リモートによる授業を実施することで、ICT 機器を活用した情報を発信するスキルを高めることができた。今年度は野外宿泊活動時に佐世保市青少年の転移にて、念願であった対面での交流会を実施できたことは大きな成果である。

２　環境自然

五島列島最北端の宇久島は、大変美しい環境に恵まれている一方、少子高齢化により過疎化が深刻化している。美しい地域を守るとともに、宇久島を活性化していくために、自分たちにできることは何かを考え活動している。

（１）小中高合同海岸清掃（６月）

郷土の身近な自然の実態を知ることにより環境保全の心や宇久の自然を愛する心を育てるとともに、小中高が協力してふるさと宇久のために自分ができることを考え、実践する機会とすることを目的に実施した。

本年度は感染症の緩和もあり、50 名を超える地域ボランティアの参加があった。

（２）地域花植え活動（６月、１０月）

地域貢献活動として、道路沿いのプランターに、宇久地区老人会と協力して花植え活動を行った。奉仕の精神や思いやりを育むとともに、ふるさとへの思いも深めることができた。

また、宇久島の玄関港である港周辺の緑化推進となった

３　郷土学習

（１）宇久地区無形文化財「なぎなた踊り」（１０月）

①「なぎなた踊り」とは

本飯良地区八幡神社に伝わる奉納踊りだが、さまざまな踊りの様式が入り乱れて伝承されているようである。一部には歌舞伎勧進帳の弁慶・富樫を模したとも言われ、一部には弁慶・牛若丸を模していると言われている。一度途絶えた踊りを発掘したものであるため、長い間に徐々に変容していき、現在に至っている。

踊りは、弁慶・富樫を模した問答の後、緩やかななぎなた踊りに移る。お謡いにあわせて、大太刀（男踊り）、小太刀（女踊り）で踊る。

※統合前の神浦中学校が掘り起こして、現在本校で伝承している。

②本校での取組

目的を下記のとおり設定した。

・郷土の伝統芸能を体験することにより地域理解と宇久島のよさを発見し伝統を継承する。

・「なぎなた踊り」の歴史的背景を学習し，学んだことを表現する。

・他学年とコミュニケーションを図りながら、協力して踊りを完成させる大切さを味わう。

＜実際の取組＞

・地域との連携

地域の方を講師としてお招きし、ご指導いただくことで、できるだけ昔の形で残せるように取り組んでいる。

・リーダーの育成
大太刀、小太刀それぞれの３年生がパートリーダーとなり、リーダーの指示のもと自分たちで本時の目標を決め取り組んでいる。

（２）宇久島調べ（９月）
宇久島の歴史や文化について、文化財課より講師をお招きし、自分たちが住む宇久島には、どんな歴史があるのかを、実際にフィールドワークをすることで再発見し、宇久島の魅力を学習している。

4　キャリア教育

キャリア教育の一環としてとして、宇久町観光協会の村上会長を講師として招聘し、海士の仕事について講話をいただいた。さらに佐世保市総合医療センターより山口助産師に来島いただき「性教育講演会」を実施した。生命の神秘を知るだけでなく、仕事をする上での大切なことややりがいを知ることができ、職業に就くための自身の進路選択について深く考える機会となった。

5　健康食育

全学年で地域食材を使った調理実習を行った。豊かな海洋資源、また宇久島の特産品について学ぶ機会となった。小中高一貫教育の共通の取組である「自分でつくるお弁当の日」では、昨年同様自宅で弁当をつくり、その写真を投稿するかたちをとった。栄養面で偏りが出ることがないように工夫するなど健康管理について考える機会となった。栄養教諭を中心とした健康部会の指導のもと食に関する意識も高まった。

【成果と課題】

今年度は、アフターコロナとなり活動を少しずつ広げた取組となった。また、海上時化が数回重なりキャリア教育の一環として招聘予定であった長崎県立大学　山﨑祐一　教授の講演を中止せざるを得なかったことは大変残念であった。

しかし、宇久地区無形文化財「なぎなた踊り」を八幡神社で披露し、昨年度以上にたくさんの地域の方々に披露することができたことや小中高海岸清掃、地域における花植え活動は、共に参加をしてくださる地域の方が増え活気ある活動となった。

社会が日々変化をする状況のなか、学校の特色を生かすために教職員が目的のために協働し、創造することでこれまでの形にとらわれないアプローチを見出すことにつながった。

社会の在り方が劇的に変わる予測不可能な時代を生き抜く生徒は、この１年間の５つの重点項目における各プログラムを経験することで、郷土を愛し、郷土に貢献する心を養い、持続可能な社会の作り手として成長することができた。